

一般社団法人 **日本リウマチ学会**

第 22 回定時社員(会員)総会資料

第 1 号議案	2024 年度事業報告書承認の件
第 2 号議案	2024 年度決算報告書承認の件
第 3 号議案	2025 年度予算案承認の件
第 4 号議案	規則および細則の改定の件
第 4 号の 1 議案	定款運用規則の改定案
第 4 号の 2 議案	専門医制度規則および細則の改定案
第 5 号議案	第 12 期役員（理事・監事）の選任の件
第 6 号議案	新評議員の選出承認の件
第 7 号議案	名誉会員・功労会員の選任承認の件
第 8 号議案	第 72 回学会長の選出の件
報 告 事 項	2025 年度学会賞・奨励賞の受賞者について

2025 年 4 月 24 日

一般社団法人日本リウマチ学会

Ⅱ. 事業（会務）報告

1. 会員の状況

2025 年 3 月 1 日現在の社員（会員）総数は 9,729 名で会員の種別・増減内訳は下記のとおりである。
注：（ ）内は、2023 年 3 月 1 日現在の会員数を表す。

会員総数	9,729 名 (9,791 名)	- 62 名	[海外名誉会員を除く]
種別内訳：			
一般会員	8,072 名 (8,170 名)	-98 名	
評 議 員	1,027 名 (1,029 名)	-2 名	
名誉会員	71 名 (72 名)		[国内名 44 名 (45 名) 海外 27 名 (27 名)]
功労会員	230 名 (212 名)	+18 名	
購読会員	356 名 (335 名)	+21 名	

年間会員増減：

(2024 年 3 月 1 日～2025 年 2 月 28 日)

新入会名	379 名	(362 名)	+17 名
再入会	6 名	(10 名)	-4 名
△退会者	450 名	(404 名)	+46 名

(定款第 9 条第 1 号希望退会者 275 名，同条第 2 号による退会者 175 名)

2. 活動目標

2023 年 4 月に発足した第 11 期理事会において次のような活動目標を掲げて活動した。

- 1) 前理事会の将来構想委員会で策定した提言の具現化
- 2) 疾患ガイドライン、指針などの作成を主導して本学会でオーソライズし、「JCR の関節リウマチ管理ガイドライン」などのように学会名を冠に据えられるよう整備，厚生労働省研究班，他学会等との協力
- 3) 卒前・卒後教育を充実させるため，全大学に膠原病・リウマチ学講座，診療科の設置を求め，本分野を志す若き人材の確保
- 4) ACR, APLAR, EULAR との協調，アジアをリードできる国際化体制の構築。また，若手を中心とする J-STAR 委員会の充実と国際関連学会との関係の活性化

3. 2024 年度事業報告

1) 総会・学術集会

第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会 会長 高木 理彰

会期：2024 年 4 月 18 日 ～ 4 月 20 日

会場：神戸市

参加者：6,955 名

(海外からの参加者：250 名，専攻医・初期臨床研修医・医学部学生:659)

2) 支部学術集会

第 34 回北海道・東北支部集会	10 月 19, 20 日	天童市	会長	高窪 祐弥
第 34 回関東支部集会	12 月 7, 8 日	港区	会長	天野 宏一
第 35 回中部支部集会	9 月 6, 7 日	津市	会長	中島亜矢子
第 33 回近畿支部集会	9 月 7, 8 日	神戸市	会長	松井 聖
第 35 回中国・四国支部集会	11 月 2, 3 日	広島市	会長	平田信太郎
第 67 回九州・沖縄支部集会	3 月 2, 3 日	宮崎市	会長	日高 利彦
第 68 回九州・沖縄支部集会	9 月 7, 8 日	佐賀市	会長	多田 芳史

3) 理事会

2024 年度定例理事会を 5 回開催した。主要審議事項は次のとおり。

第 1 回理事会 (4 月 17 日)

定例評議員会・総会承認事項の審議(事業報告，決算・監査報告，予算審議，名誉会員・功労会員・評議員の選任，第 71 回学会長選出，第 68 回学術集会の実施概要，ガイドライン等の取り決め，卒前教育に関するアンケート結果，JCR フロンティア研究者助成採択者の選考，APLAR Center of Excellence，第 69 回日本リウマチ学会総会学術集会のテーマ，日本リウマチ学会会員データの分析等

第 2 回理事会 (7 月 7 日)

第 68 回学術集会アンケート結果報告，第 69 回学術集会予算およびプログラム，評議員制度の今後の動向，学術集会の抄録集冊子体，研究助成の審査ルール，定款運用規則の改定，ステロイドに関する用語の修正，膠原病・リウマチ内科学の卒前教育に関する調査結果，利益相反に関する指針の細則の改定，JAK 阻害薬使用ほか各種手引きとガイドの改訂，重篤有害事象特別調査委員会，登録ソノグラファー規則施行細則の一部改定，周術期抗リウマチ薬使用ガイドライン予算，APLAR2025 準備委員会，厚生労働省および文部科学省との面談報告等

第 3 回理事会 (9 月 1 日)

第 12 期理事選挙の概要，第 68 回学術集会決算，第 69 回予算およびプログラム，2024 年度教育施設(新規・継続)の認定，日本免疫学会との共同企画，JAK 阻害薬使用の手引き，利益相反に関する指針の改定，脊椎関節炎診療ガイドライン，厚生労働省および文部科学省との面談報告，ザルトプロフェン製剤の安定供給継続に関する要望等

第 4 回理事会 (10 月 27 日)

第 69 回学術集会予算/プログラム，寺子屋企画，第 70 回(2026 年)/第 71 回(2027 年)学術集会運営業務委託先，第 75 回(2027 年)学術集会会場，膠原病・リウマチ内科学に関する教育の充実，かかりつけ医からリウマチ専門医・膠原病・リウマチ内科専門医・専門医療機関への紹介基準，日本医学教育評価機構(JACME)への働きかけ，膠原病・リウマチ内科学のモデル講義カリキュラム，研究助成のテーマ，2024 年度登録ソノグラファーの承認，公式 LINE の運用と Modern Webinar の活用，ハラスメントポ

リシーの策定, 各支部集会予算, 各委員会活動の進捗, 国立大学教育研究評価委員会専門委員及び機関別認証評価委員会専門委員の候補者の推薦等

第5回理事会 (2月9日)

第69回学術集会(予算/プログラム/社交行事), 第72回(2028年度)学会長推薦, 2025年度新評議員・名誉会員・功労会員の選出, 2024年度決算及び2025年度予算案, モデル講義カリキュラム基礎短縮版と実習モデルプラン, 事前学習用ビデオの作成, 医療戦略小委員会の設, MRY Excellent Paper Award, 2025年度専門医と指導医(新規・更新)の認定/新専門医規則の改定, 学術集会の実務運営細則の改定, JCR2025 Excellent Abstract Award/Travel Award 受賞者, LINEのお友達登録増加のための施策, リウマチ用語の変更, 2025年度 ACL/中央教育研修会プログラム, ハラスメントの告発に対する対応/ポスターによる広報, 自己免疫疾患に対する CAR-T 細胞療法モニタリング委員会の設置, 2025年度学会賞・奨励賞受賞者, 販売中止・出荷停止への対応と安定確保医薬品の見直しリスト等

4) 学会誌

- (1) 学会誌 Modern Rheumatology (MR) を年6回定期刊行, およびオンライン版 MR Supplement (学術集会英文抄録集) を年1回刊行した。
- (2) 編集委員 12 名を含む Transmitting Editor 合計 35 名で電子投稿査読システム Editorial Manager を活用。投稿論文の公正かつ速やかな査読行程に努め, 医学倫理に則り掲載論文の質の向上に努めた。
- (3) 2023 年の Impact Factor (IF) は 1.8, 5 年 IF は 2.15 であった。
- (4) 出版社からのロイヤリティ収入を基に若手 JCR 会員の論文を Open Access とし, 48 論文を Selected Paper として出版した。
- (5) Modern Rheumatology Case Reports (MRCR) は編集委員 11 名を含む Transmitting Editor 合計 20 名による編集体制。2024 年 7 月に 8-2 号, 2025 年 1 月に MRCR 9-1 号を発行, それぞれ 34 編, 43 編の論文を掲載し, 創刊からこれまでに 570 編以上の論文を出版している。
- (6) MRCR へは国内外から 269 篇(うち USA25 篇, トルコ 26 篇, インド 21 篇など海外 35 カ国, 合計 171 篇)の論文が投稿され, 採択率は 30%弱となっている。
- (7) 2022 年分より IF が付与され, 2023 年の IF は 0.9, 5 年 IF は 0.7 を取得した。

5) 専門医制度

- (1) 2025 年度膠原病・リウマチ内科領域の新規基幹施設を募集し新たに 9 施設を認定した。4 月 1 日時点の膠原病・リウマチ内科領域研修の基幹施設は 270 施設となった。
- (2) 2023 年 4 月より専攻医症例登録システム(リウマチ版 J-OSLER)の運用を開始しており, 内科専門研修 2 年目からの専攻医が利用している。
- (3) 学会認定のリウマチ専門医教育施設として, 新規 23 施設, 更新 163 施設を認定した。2024 年 9 月 1 日時点での日本リウマチ学会認定教育施設は 617 施設(前年同月比 10 施設の増加)となった。
- (4) 2025 年 1 月に第 38 回リウマチ専門医資格認定試験を Computer Based Training (CBT) 方式で実施した。受験者は 143 名(前年 166 名)で合格者は 123 名(前年 139 名), 合格率 86.01%(前期 83.73%)であった。

- (5) 2024 年 3 月 1 日付けで専門医・指導医の資格更新の認定を行った。リウマチ専門医は 5,239 名(前年比-10 名), 指導医は 2,253 名(同+77 名)である。特に指導医は 2016 年度の規則改定以降着実に増加している。
- (6) 膠原病・リウマチ専門医の育成を目指し, 特命副理事長を任命して卒前卒業教育ワーキンググループを設置。全国の大学医学部を対象にした膠原病・リウマチ内科領域の専門講座の設置状況, 専門医の配置ならびに教育環境などのアンケート調査を実施した。

6) 膠原病・リウマチ内科学の医学部卒前教育改善に向けての活動

- (1) 「膠原病・リウマチ内科学の卒前教育に関する調査」を実施し, 膠原病・リウマチ内科学領域の卒前教育の現状に関するデータを収集のうえ 2024 年第 2 回理事会へ報告した。
- (2) 2024 年 8 月 2 日に厚生労働省(医政局医事課, がん・疾病対策課, 難病対策課)を訪問し, 全国大学病院における膠原病・リウマチ内科診療科の診療体制の改善に関する要望書を提出した。9 月 24 日に文部科学省(高等教育課)を訪問し, 医学部における膠原病・リウマチ内科学講座設置に関わる要望書を提出した。
- (3) 医学部卒前教育改善 WG を組織し, 「膠原病・リウマチ内科学 モデル講義カリキュラム」を作成した。
- (4) 2024 年度に医学部卒前教育改善 WG 参加型臨床実習検討会を組織し, 3 種類の臨床実習モデルプランを立案した。
- (5) 近年, 膠原病・リウマチ内科学の専門講座が設立された 7 大学の講座責任者にご協力頂き, 大学組織上の位置づけ, 設立の経緯, 医学部教育への貢献, 医学部付属病院への貢献, 構成員についてデータを収集した。
- (6) 理事長, 副理事長, 特命副理事長が 2025 年 1 月に文部科学省(高等教育課)と厚生労働省(医政局医事課, がん・疾病対策課, 難病対策課, 医療介護連携政策課)をそれぞれ訪問し, 上記(3)(4)(5)の資料を説明し, 膠原病・リウマチ内科専門講座の設置および講座教授を含む専門教員の配置, 未設置・未配置の医学部には積極的に促して頂くための文書を提出した。
- (7) 「膠原病・リウマチ内科学モデル講義カリキュラム」の事前学修ビデオの見本を作成し, 来年度の早期に配信可能な状態にする計画を立てている。

7) 診療ガイドラインなどの策定

2023 年度に策定した本学会, および厚生労働省, AMED などの行政機関の研究班, また厚生労働省からの依頼による市販後調査で作成する各種ガイドライン, 指針, 推奨文, 調査研究など取り扱いのフローチャートに基づき, 次のガイドラインなどを承認・作成した。

- (1) 関節リウマチ診療ガイドライン 2024 改訂 若年性特発性関節炎少関節炎型・多関節炎型診療ガイドラインおよび translated paper
- (2) IgG4 関連疾患診療ガイドライン
- (3) 慢性再発性多発性骨髄炎および TNF 受容体周期性症候群の改訂と診断基準
- (4) 修正版 TNF 受容体周期性症候群の診断基準
- (5) 全身性強皮症診療ガイドライン 2025 年版(作成協力)

- (6) 若年性特発性関節炎診療ガイドライン 2024-2025 年版
- (7) シュニッツラー症候群の指定難病のための診断基準と個表
- (8) シェーグレン症候群診療ガイドライン 2017 年版 [2025 年 Update]
- (9) 膠原病に伴う間質性肺疾患診断・治療指針 2025
- (10) リウマチ診療のための関節エコー撮像の手引き改訂版
- (11) 関節リウマチ若年性特発性関節炎少関節炎型・多関節炎型 全身性エリテマトーデスの遠隔医療の確立に向けた提言
- (12) 再発性多発軟骨炎 診断・治療ガイドライン

8) 国際化の推進と若手の育成

- (1) JCR2024 (神戸) で ACR session 「System biology and mechanism-based therapy in rheumatic disease」, EULAR session 「EULAR Updates and Perspectives in Rheumatology」, APLAR session 「APLAR activities: recent understandings of important clinical issues and recent translational research investigations」を開催した。
- (2) 海外演者を対象とした「Travel Award」には、22 カ国・地域から 69 名 81 演題がエントリーされ、JCR 国際委員会と国際委員会サブコミッティによる審査により 25 演題を選出した。また海外若手医師・研究者の学術集会参加サポートを目的として「Travel Support」を設け、44 名に 500 ドル/250 ドルを支弁した。
- (3) JCR 会員を対象とした国際ワークショップ優秀演題賞 (ICW Excellent Abstract Award) は、対象演題 142 演題から 31 演題を選出した。
- (4) 「JCR-EULAR 若手リウマチ医トレーニングプログラム 2024」を企画し、長期トレーニング 1 名を選出した。
- (5) APLAR 2024 (シンガポール) に演題投稿した 45 歳未満の JCR 会員の中から国際委員会での審査により 30 名を選出し、受賞者へは「APLAR2024 Excellent Abstract Award on JCR」として賞状と賞金 15 万円が贈られた。
- (6) 7 月 25 日 (木) ~27 日 (土) に JCR 国際育成セミナー2024 (JCR International School 2024) を軽井沢プリンスホテルで開催した。
- (7) 11 月 14~19 日にワシントン DC で開催された ACR2024 期間中に JCR/ACR ジョイントセッション「The JCR-ACR Scientific Session: At the Heart of the Inflamed Vessel: New Insights into Cardiovascular Disease and Vasculitis」を開催した。
- (8) 6 月に開催された EULAR, 8 月に開催された APLAR, また 11 月に開催された ACR に JCR ブースを設置し、学会誌ならびに JCR のプロモーション活動を行った。

9) 教育研修会等の開催

- (1) 全国規模の教育研修会として、4 月 21 日にアニュアルコースレクチャーを開催しオンデマンドで配信した。また 8 月 25 日に東京、12 月 15 日に大阪で全国中央教育研修会を開催した。
- (2) 第 11 回ベーシックリサーチカンファレンスを 11 月 15, 16 日に富士ソフトアキバプラザ (東京秋葉原) で開催した。また医学部生、初期臨床研修医、初期研究者を対象としたリウマチ学における基礎研究の素晴らしさを伝える基礎研究次世代育成セミナーとして「DokiDoki セミナー」を岩手、島根、広島で開催した。

- (3) 関節超音波検査初級講習会を6月9日と12月22日に東京と大阪で開催した。またオンライン講習会を9月29日と1月26日の2回開催した。登録ソノグラファーは2024年度51名を新規登録し、139名の資格更新を行った。
- (4) 臨床研究合宿を7月19～21日の3日間、クロスウェーブ府中で開催した。
- (5) 「AI技術が切り拓く新たなリウマチ学に向けた教育シンポジウム」を1月19日にハイブリッドで開催した。

1 0) 研究助成事業

- (1) 厚生労働省より「アレルギー情報センター事業」の付託を受け、保健、福祉関係者および医療従事者と対象とした「リウマチ相談員養成研修会」を12月15日に大阪で開催した。
- (2) 旭化成ファーマ株式会社の助成により「JCR フロンティア研究者助成プログラム」として、「自己免疫疾患に合併した間質性肺疾患の病因・病態・進展メカニズムに関する研究」の公募を行った。

1 1) その他

- (1) 専門医認定単位をアプリで管理するための「JCR 会員アプリ」の運用を開始した。
- (2) ウパダシチニブ使用中のニューモシスチス・イロベチィ肺炎および間質性肺炎発症状況報告と適正使用順守に文書を発出した。
- (3) ミコフェノール酸モフェチルの「ANCA 関連血管炎（顕微鏡的多発血管炎，多発血管炎性肉芽腫症，好酸球性多発血管炎性肉芽腫症）」ならびに「皮膚筋炎」，「若年性皮膚筋炎」への保険適用が認められた。
- (4) アダリムマブ（40 mg）が「既存治療で効果不十分な X 線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎」を効能又は効果とする追加承認を取得した。

4. 卒前，卒後教育の充実に向けた活動

- 1) 2024年8月，9月，1月と3回にわたり厚生労働省（医政局医事課，がん・疾病対策課，難病対策課）と訪問し，「全国大学病院における膠原病・リウマチ内科診療科の診療体制の改善に関する要望書」を提出した。要望書では，膠原病・リウマチ内科を専門とする教員が講義を行っている大学は55.6%にとどまり，指導医の不足により他科の指導医が膠原病・リウマチ内科の臨床実習を担当している現状など，膠原病・リウマチ内科診療体制の危機的な状況を説明し，全大学病院と研修指定病院に於ける膠原病・リウマチ内科の設置，診療科長の配置と複数名の指導医を配置できる体制となることを要望した。
- 2) 2024年9月，1月と2回にわたり文部科学省高等教育局医学教育課長と面談し，「医学部における膠原病リウマチ内科学講座設置に関わる要望書」と「膠原病リウマチ内科学講座設置をご検討頂くための要望書」を提出した。要望書では，全大学病院を対象とした「膠原病・リウマチ内科学の卒前教育に関する調査アンケート」の結果を報告するとともに，国立大学を含めた複数の大学で膠原病・リウマチ指導医が不在となっていることで，医学部学生が膠原病・リウマチ学や分子標的治療などを学ぶ機会を逸していることなどを報告し，教育の充実に向けた作成した膠原病・リウマチ内科学モデル講義カリキュラムやモデル実習プランなどを説明。また直近で膠原病の講座が設置された7大学の講座設置に至った経緯と設置後に大学，病院へもたらした効果を報告した。文科省と

しては、膠原病・リウマチ内科は専門医機構のサブスペシャルティとして認定され、教育の充実には講座があっても良いという考えが示され、全国病院長会議などで「膠原病リウマチ内科学に関する教育の充実について」のスライドを掲示いただくこととなった。

5. 2025 年度事業案

1) 総会・学術集会

- (1) 川上純会長のもと、2025 年 4 月 24 日(木)～26 日(土)に福岡国際会議場・福岡サンパレス・福岡国際センターにおいて第 69 回日本リウマチ学会総会・学術集会をで開催する。
- (2) 渥美達也会長のもと、2026 年 4 月 23 日(木)～25 日(土)に福岡国際会議場・福岡サンパレス・マリンメッセ福岡で開催する第 70 回日本リウマチ学会総会・学術集会の準備を進める。

2) 卒前、卒後教育の充実

文部科学省、厚生労働省へ引き続き膠原病・リウマチ内科学講座および膠原病リウマチ内科診療科の設置を働きかけていく。卒前、卒後教育カリキュラムなどを充実させ、課題を有する大学などを直接訪問することも検討する。

3) 診療ガイドライン、提言、勧告など作成、管理について

2023 年に策定した各種ガイドライン、指針、推奨文、調査研究など取り扱いのフローチャートに基づき、委員会ならびに厚生労働省および AMED などの行政機関の研究班で作成されるガイドラインや提言、診断基準を日本リウマチ学会の冠を付けて作成する。

4) JCR 学会誌

- (1) MR 論文の質の向上と引用の増加を図り、更なる国際的展開を進める。
- (2) 質の高い出版を維持し年 6 号発行する。
- (3) 英文抄録集は学術集会の演題登録時に英文抄録を義務付け、MR Supplement として年 1 号をオンラインで発行する。
- (4) 国際学会で MR および MRCR のプロモーション活動を精力的に行い、欧米からの投稿数増加を促す。
- (5) 著者、査読者、編集も含め、ジャーナルへの投稿出版に関わる出版倫理について、教育および周知に努める。

5) 専門医制度

- (1) 学会認定専門医制度の管理・検討・改訂、指導医の新規認定・資格更新業務、教育研修会の認定業務、他の学会・日本専門医機構との調整を引き続き実施する。
- (2) 機構認定の膠原病・リウマチ内科領域専門医の育成を目指し、卒前・卒後教育を充実させ、全大学に膠原病・リウマチ学講座、診療科の設置に向けた活動を行う。
- (3) 膠原病・リウマチ内科領域専門医への移行に向けた認定と更新の必要な要件をまとめる。

6) 国際化の推進と若手の育成

- (1) 国際化の推進にあたり学術集会での英語セッション枠を増やし、ICW, ACR, EULAR, APLAR, TREG セッションを継続して開催する。会員を対象とした ICW Excellent Abstract Award, 海外の若手研究者を対象とした JCR Travel Award を引き続き実施する。

- (2) APLAR2025 福岡大会（2025 年 9 月 5 日～7 日）で優秀演題賞を設け、若手医師の APLAR をはじめとする国際学会への参加をうながす。
- (3) J-STAR 委員会の活動をより活発させ、国内外の若手研究者と様々なツールで積極的に交流を図りながら、将来的なリウマチ学発展への貢献を目指す活動を推進する。また J-STAR 委員会を EULAR の若手組織である EMEUNET，同じく APLAR の若手組織である AYR のカウンタパートとして位置づけ、海外学術団体との交流活動を深めていく。
- (4) 若手リウマチ医の英語プレゼンテーション能力の向上を目的としてリウマチ学の世界的トップリーダーを招いて「JCR 世界トップ寺子屋」開催する。また国際育成セミナーも例年通り開催する。

7) 社会医療費の向上

- (1) 社会保険委員会を再構成し、内保連対応，および，外保連対応を積極的に行い，実地診療における保険適用の拡大を目指す。
- (2) DPC 係数の向上，疾患別，臓器障害別再構築を行い，入院加療での本学会に関連する疾患における医療技術での正当な評価向上を行う。
- (3) 外来診療における指導料，手技料などの加算の充実，拡大を目指す。

8) その他

- (1) SNS，HP，NLなどを最大限活用し，国内および国際的な情報化をさらに推進し，情報活動を賦活化させる。
- (2) 研修施設と指導医の偏在を解消し専攻医の研修環境を充実させる活動を続ける。
- (3) 会員数，評議員数の少ない地域においては会員数を増加させる対策をたて，評議員数の適正化を議論する。
- (4) 健全な財務基盤の構築に向け，学術集会を始めとする支出の適正化を進める。

決 算 報 告 書

第 1 6 期

自 令和6年3月 1日

至 令和7年2月28日

一般社団法人 日本リウマチ学会

東京都港区浜松町2丁目9番6号

貸 借 対 照 表

(単位:円)

令和7年2月28日現在

Ⅰ 資産の部		2024年度	Ⅱ 負債の部		2024年度
科 目			科 目		
流動資産	現金	0	流動負債	未払金	50,000
	普通預金	842,521,103		未払法人税等	70,000
	流動口座 計	618,538,003		前受金	5,794,000
	みずほ銀行/虎ノ門	7,251,036		預り金	541,147
	三菱UFJ銀行/虎ノ門	238,968,768			
	三菱UFJ銀行/助成専用口(その他)	10,000,000		仮受金	234,123,725
	三菱UFJ銀行/第67回学術集会口	0			
	三菱UFJ銀行/第69回学術集会口	186,785,100	流動負債合計		240,578,872
	三菱UFJ銀行/第70回学術集会口	0	固定負債	学術集会等準備基金	170,800,000
	郵便貯金	114,836,050		APLAR積立準備基金	53,183,100
	郵便振替口座00140	37,341,281			
	郵便振替口座00170	23,355,768			
	特定口座 計	223,983,100			
	三菱UFJ銀行/学術集会積立金	170,800,000			
	三菱UFJ銀行/助成専用口				
	APLAR準備金	53,183,100			
	支部預金	130,546,841			
	未収金	4,608,000	固定負債合計		223,983,100
	前払金	600,000	負債合計		464,561,972
	前払費用	1,104,048	Ⅲ 正味財産の部		
	仮払金	21,509,021	基金	基金	120,000,000
				(うち基本財産への充当額)	120,000,000
				(うち特定資産への充当額)	0
固定資産	(1)基本財産合計	120,000,000	指定正味財産	指定正味財産合計	0
	普通預金	120,000,000		(うち基本財産への充当額)	0
				(うち特定資産への充当額)	0
	(2)その他固定資産				
	構築物	7,132,309	一般正味財産	一般正味財産合計	560,301,157
	什器備品	9,642,499		(うち基本財産への充当額)	0
	ソフトウェア勘定	32,576,500		(うち特定資産への充当額)	0
	減価償却累計額	-35,413,992			
	敷金	10,036,800	正味財産合計		680,301,157
固定資産合計		143,974,116	負債及び正味財産合計		1,144,863,129
資産合計		1,144,863,129			

財 産 目 録

令和7年2月28日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
資産の部			
1.流動資産			
現金預金	842,521,103		
普通預金(流動口座)計	618,538,003		
みずほ銀行/虎ノ門支店	(7,251,036)		
三菱UFJ銀行/虎ノ門支店	(238,968,768)		
三菱UFJ銀行/助成専用口(その他)	(10,000,000)		
三菱UFJ銀行/第67回学術集会口	(0)		
三菱UFJ銀行/第69回学術集会口	(186,785,100)		
三菱UFJ銀行/第70回学術集会口	(0)		
郵便貯金	(114,836,050)		
郵便振替預金(00140)	(37,341,281)		
郵便振替預金(00170)	(23,355,768)		
特定口座 計	223,983,100		
三菱UFJ銀行/学術集会積立金	(170,800,000)		
三菱UFJ銀行/助成専用口(APLAR積立金)	(53,183,100)		
支部預金	130,546,841		
未収金 クレジットカード 他	4,608,000		
前払金	600,000		
前払費用	1,104,048		
仮払金	21,509,021		
流動資産合計		1,000,889,013	
2.固定資産			
基本財産			
三井住友銀行/浜松町支店	120,000,000		
基本財産合計	120,000,000		
その他固定資産			
建物附属設備・器具備品・ソフトウェア	13,937,316		
敷金	10,036,800		
その他固定資産合計	23,974,116		
固定資産合計		143,974,116	
資産合計			1,144,863,129

科 目	金 額		
負債の部			
1.流動負債			
未払金	50,000		
未払法人税等	70,000		
前受金	5,794,000		
2025～2028年度会費等	738,000		
指導医登録料 105名	2,100,000		
専門医登録料 122名	2,440,000		
専門医関連 1名	10,000		
その他 研修会共催金等	506,000		
預り金 源泉所得税・健康保険・厚生年金	541,147		
仮受金 総会学術集会等	234,123,725		
流動負債合計	240,578,872		
1.固定負債			
学術集会準備基金	170,800,000		
APLAR積立準備基金	53,183,100		
固定負債合計	223,983,100		
負債合計		464,561,972	
正味財産			680,301,157

正味財産増減計算書
自 令和6年3月1日 至 令和7年2月28日

(単位:円)

科目	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	増減(2024年-2023年)
I.一般正味財産増減の部			
経常増減の部			
(1)経常収益			
受取会費			
会費収入	120,981,000	121,062,000	81,000
事業収益			0
広告料収入	26,694,800	24,692,800	-2,002,000
諸制度収入	31,626,000	31,244,000	-382,000
学術集会収入	330,385,713	346,433,659	16,047,946
支部収入	167,217,452	166,305,767	-911,685
教育研修会収入	28,149,500	25,554,500	-2,595,000
国際関連事業収入	2,100,000	3,630,000	1,530,000
経常収益計	707,154,465	718,922,726	11,768,261
(2)経常費用			0
事業費	635,038,293	656,262,571	21,224,278
学術集会経費	320,913,019	336,028,638	15,115,619
学術集会関連経費	4,487,799	4,576,317	88,518
関連学会費	2,465,800	2,307,050	-158,750
委員学費	3,360,213	5,867,948	2,507,735
会費	7,034,258	7,807,208	772,950
国際関連事業費	26,135,885	22,235,743	-3,900,142
諸制度運営費	12,127,963	11,910,494	-217,469
教育研修費	52,752,057	51,915,009	-837,048
英文誌経費	24,864,962	24,182,484	-682,478
情報通信経費	12,146,935	11,652,284	-494,651
調査研究費	2,717,945	2,248,140	-469,805
支部経費	154,157,703	160,218,470	6,060,767
保守管理費	8,914,309	12,386,354	3,472,045
支払手数料	2,524,899	2,711,436	186,537
雑費	434,546	214,996	-219,550
医学用語集	0	0	0
管理費	88,899,811	107,360,302	18,460,491
給料手当	15,917,386	26,526,087	10,608,701
雑給	4,551,331	2,359,648	-2,191,683
賞与	15,080,050	15,593,350	513,300
通勤費	1,846,650	1,276,000	-570,650
紹介手数料	1,491,875	2,024,610	532,735
法定福利費	9,415,528	10,296,629	881,101
福利厚生費	440,783	348,182	-92,601
報酬	2,795,298	2,771,736	-23,562
旅費交通費	39,382	24,186	-15,196
通信運送費	2,741,030	4,171,045	1,430,015
印刷費	541,288	1,400,700	859,412
消耗品費	3,825,081	2,815,650	-1,009,431
接待交際費	33,000	84,800	51,800
保険料	2,418,050	4,288,940	1,870,890
賃借料	14,713,060	14,356,779	-356,281
水道光熱費	650,090	782,415	132,325
諸管理費	3,395,697	8,773,352	5,377,655
租税公課	5,145,860	6,643,928	1,498,068
広告宣伝費	3,066,800		-3,066,800
減価償却費	791,572	2,822,265	2,030,693
経常費用計	723,938,104	763,822,873	39,884,769
当期経常増減額	-16,783,639	-44,700,147	27,916,908
経常外増減の部			0
(1)経常外収益			0
寄付金・助成金			0
雑収入	20,629,283	40,936,191	20,306,908
移転補償料			0
特別利益			0
経常外収益計	20,629,283	40,936,191	20,306,908
(2)経常外費用			0
雑損損失	819,516		-819,516
固定資産減損損失			0
特別損失			0
APLAR積立準備金繰入			0
経常外費用計	819,516	0	-819,516
当期経常外増減額	19,809,767	40,936,191	21,126,424
当期一般正味財産増減額	3,026,128	-3,763,956	-6,790,084
一般正味財産期首残高	564,679,185	564,065,113	-614,072
一般正味財産期末残高	567,705,313	560,301,157	-7,404,156
II.指定正味財産増減の部			0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III.基金増減の部			0
基金受入額			0
基金返還額			0
当期基金増減額	0	0	0
基金期首残高	120,000,000	120,000,000	0
基金期末残高	120,000,000	120,000,000	0
IV.正味財産期末残高	687,705,313	680,301,157	-7,404,156
	727,783,748	759,858,917	
	724,757,620	763,822,873	
	3,026,128	-3,763,956	

財務諸表に対する注記

1.重要な会計方針

資産の評価基準及び評価方法

(1)固定資産の減価償却の方法

有形固定資産	法人税法の規定による定率法 但し、平成10年4月1日以降取得の建物については定額法
無形固定資産	法人税法の規定による定額法

(2)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2.基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	資産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産	普通預金	120,000,000	0	0	120,000,000
	基本財産計	120,000,000	0	0	120,000,000
特定資産	特定資産計	0	0	0	0
合計		120,000,000	0	0	120,000,000

3.基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	資産の種類	当期末残高	(うち指定正味 財産からの充 当額)	(うち一般正味 財産からの充 当額)	(うち基金からの 充当額)	(うち負債に 対応する 額)
基本財産	普通預金	120,000,000	0	0	120,000,000	0
	基本財産計	120,000,000	0	0	120,000,000	0
特定資産	特定資産計	0	0	0	0	0
合計		120,000,000	0	0	120,000,000	0



費 目		内 容	単 価	数 量	金 額
第68回 日本リウマチ学会総会・学術集会（学会収入）					
1. 参加者会費（有料参加者6,296名）					117,563,000
事前参加登録	一般会員		18,000	3,636	65,448,000
	一般（非会員）		24,000	1,136	27,264,000
	コメディカル・大学院生		4,000	300	1,200,000
	コメディカル・大学院生（非会員）		5,000	158	790,000
	専攻医		0	222	0
当日参加登録	初期臨床研修医・医学部学生		0	107	0
	一般会員		22,000	497	10,934,000
	一般（非会員）		24,000	478	11,472,000
	コメディカル・大学院生		5,000	40	200,000
	コメディカル・大学院生（非会員）		5,000	51	255,000
	専攻医		0	66	0
	初期臨床研修医・医学部学生		0	63	0
2. 懇親会参加費収入					706,000
	全員懇親会参加費		1,000	706名	706,000
3. 単位手数料収入					1,401,000
	日本整形外科学会		1,000	1,401件	1,401,000
4. 抄録集販売収入					1,953,000
	和文抄録集販売		3,000	651件	1,953,000
5. 企業展示出展料					42,975,759
	特設ブース		3,300,000	12社	39,600,000
	基礎（小間）		330,000	8社	2,640,000
	書籍展示（2社）		735,759	1式	735,759
6. 広告料収入					3,465,000
	抄録集掲載料		1,628,000	1式	1,628,000
	ハンディプログラム掲載料		957,000	1式	957,000
	スマートフォンアプリ広告掲載料		110,000	8社	880,000
7. 共催セミナー収入（57枠）					159,940,000
	モーニングセミナー	大A会場クラス	3,080,000	0	0
		大B会場クラス	2,860,000	3	8,580,000
		中会場クラス	2,200,000	8	17,600,000
		小会場クラス	1,320,000	3	3,960,000
		小会場(アッヴィMS13)	880,000	1	880,000
	ランチョンセミナー	大A会場クラス	3,080,000	5	15,400,000
		大B会場クラス	2,860,000	11	31,460,000
		中会場クラス	2,200,000	13	28,600,000
		小会場クラス	1,320,000	10	13,200,000
	イブニングセミナー	大A会場クラス	3,080,000	0	0
		大B会場クラス	2,860,000	5	14,300,000
		中会場クラス	2,200,000	10	22,000,000
		小会場クラス	1,320,000	3	3,960,000
8. 寄附金収入					18,334,000
	日本製薬団体連合会		5,304,000	1	5,304,000
	公益財団法人中富健康科学振興財団研究助成金		1,000,000	1	1,000,000
	一般社団法人山形ヘルスサポート協会		2,000,000	1	2,000,000
	公益財団法人中内力コンベンション振興財団助成金		5,000,000	1	5,000,000
	Meet in Kobe（ポートピア'81記念基金補助金）		5,030,000	1	5,030,000
9. 雑収入					97,400
	参加登録取消料		25,400	1	25,400
	ペリトランステスト入金		72,000	1	72,000
10. 繰入金					0
	学術集会繰入基金		0	1	0
収入合計					346,435,159

費 目		金 額
第68回 日本リウマチ学会総会・学術集会（学会支出）		
I. 事前準備費		77,021,079
1. 人件費		23,140,958
	本部事務局費	21,490,958
	サポート準備室人件費	1,650,000
2. 経費		53,880,121
	印刷・制作物関係費	27,833,135
	情報発信（ホームページ）関連費	2,454,724
	旅費交通費	1,516,754
	演題処理関係費	5,749,755
	プログラム関係費	0
	通信運送費	7,396,860
	備品・消耗品費	264,000
	外注費	0
	諸経費	8,664,893
II. 当日運営費		222,691,185
1. 人件費		12,039,500
2. 旅費交通費		1,045,938
3. 会場費		67,214,915
4. 機材・備品費		51,866,298
	機材・備品費	40,321,578
	その他機材費	7,165,620
	受付用システム導入費（クレジット・共催セミナー・事前登録）	4,379,100
5. 看板装飾費		7,002,600
6. 展示関係費		15,097,940
7. 招聘関係費（非会員招聘費用、トラベルアワード、シンポジウム費用招聘費に該当）		41,785,564
8. 会合関係費（全員懇親会、ドリンクサービス、会長企画招宴費用含む）		18,429,579
9. ハンズオンセミナー関係費		1,363,351
10. その他		6,845,500
III. 事後処理費		12,398,368
	1. 人件費	660,000
	2. 旅費交通費	5,493,700
	3. 印刷費（礼状等）	779,020
	4. 通信運送費	0
	5. 公認会計士監査料（会計監査料）	275,000
	6. 支払手数料	186,590
	7. その他諸経費（クレジット精算手数料）	5,004,058
	8. 雑損失	0
IV. 業務委託費		13,918,006
	1. 進行管理費	13,918,006
V. 学術集会準備基金		10,000,000
	1. 学術集会準備金	10,000,000
	2. 若手育成（ICW, Travel Award）	
VI. 剰余金		10,406,521
支出合計		346,435,159

独立監査人の監査報告書

令和6年8月27日

第68回日本リウマチ学会総会・学術集会

会長 高木 理彰 殿

小見山公認会計士事務所

公認会計士 小見山 延 

監査意見

私は、第68回日本リウマチ学会（以下法人）総会・学術集会収支報告書（会期令和6年4月18日から令和6年4月20日開催。以下、収支報告書）の監査を行った。

私は、上記の収支報告書は、第68回日本リウマチ学会総会・学術集会の収支の状況を、全ての重要な点において、学術集會事務運営細則に準拠して作成されているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「収支計算書の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

収支計算書作成の基礎並びに配布及び利用制限

収支報告書は、一般社団法人日本リウマチ学会及び第68回日本リウマチ学会総会・学術集会のために、学術集會事務運営細則に準拠して作成されており、それ以外の目的には適合しないことがある。このことは、私の意見に影響を及ぼすものではない。

本報告書は、一般社団法人日本リウマチ学会及び第68回日本リウマチ学会総会・学術集会のみを利用者として想定しており、一般社団法人日本リウマチ学会及び第68回日本リウマチ学会総会・学術集会以外に配布及び利用されるべきものではない。

収支計算書に対する会長の責任

会長の責任は、学術集會事務運営細則に準拠して収支報告書を作成することにある。また、収支計算書の作成に当たり適用される会計の基準が状況に照らして受入可能なものであるかどうかについて判断することにある。会長の責任には、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない収支報告書を作成するために会長が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

収支計算書の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体として収支計算書に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から収支計算書に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、収支計算書の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 収支計算書の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 会長が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに会長によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 会長が入手した監査証拠に基づき、重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。重要な不確実性に関する収支計算書の注記事項が適切でない場合は、収支計算書に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいている。
- ・ 収支計算書の表示及び注記事項が、学術集会事務運営細則に記載された会計の基準に準拠しているかどうかを評価する。

利害関係

第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

独立監査人の監査報告書

令和7年3月14日

一般社団法人日本リウマチ学会
理事長 田中 良哉 殿

小見山公認会計士事務所

公認会計士

小見山 延子 **監査意見**

私は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第124条第2項第1号の規定に基づく監査に準じて、一般社団法人日本リウマチ学会の令和6年3月1日から令和7年2月28日までの第16期事業年度の貸借対照表、損益計算書（公益法人会計基準に基づく「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書（以下「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書並びに財産目録のうち意見の対象とされていない部分である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

私の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、私はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における私の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は私が監査の過程で得た知識との間に重要な相

違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

私は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、私が報告すべき事項はない。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続事業の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続事業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続事業を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、

また、入手した監査証拠に基づき、継続事業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続事業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続事業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査報告書

私は、一般社団法人日本リウマチ学会監事として、令和6年3月1日から令和7年2月28日までの事業年度の貸借対照表、正味財産増減計算書並びに財産目録、剰余金の処分に関する議案及び付属明細書を監査致しました結果、適法かつ正確であることを認めます。

令和7年 3月15日

一般社団法人 日本リウマチ学会

監事

岡山 昭彦 

監事

橋本 淳 

2025年度予算書(案)

(単位:円)

科目	予算案 (2024年度)	実績 (2024年度)	予算案 (2025年度)
I.一般正味財産増減の部			
経常増減の部			
(1)経常収益			
受取会費			
会費収入	119,774,000	121,062,000	120,500,000
事業収益			
広告料収入	24,100,000	24,692,800	25,360,000
諸制度収入	31,000,000	31,244,000	24,800,000
学術集会収入	332,630,000	346,433,659	315,612,000
支部収入	116,000,000	166,305,767	152,000,000
教育研修会収入	22,200,000	25,554,500	25,200,000
国際関連事業収入	0	3,630,000	3,630,000
A 経常収益計	645,704,000	718,922,726	667,102,000
(2)経常費用			
事業費			
学術集会経費	298,755,000	336,028,638	291,624,000
学術集会関連経費	4,500,000	4,576,317	4,500,000
関連学会費	2,500,000	2,307,050	2,500,000
委員会費	4,000,000	5,867,948	3,300,000
会議費	8,300,000	7,807,208	9,500,000
国際関連事業費	38,400,000	22,235,743	38,700,000
諸制度運営費	14,800,000	11,910,494	8,850,000
教育研修費	41,200,000	51,915,009	46,400,000
英文誌経費	42,450,000	24,182,484	39,800,000
情報通信経費	10,900,000	11,652,284	10,300,000
調査研究費	3,200,000	2,248,140	6,000,000
支部経費	116,000,000	160,218,470	152,000,000
保守管理費	8,775,000	12,386,354	13,715,000
支払手数料	3,000,000	2,711,436	3,000,000
雑費		214,996	
医学用語集			
管理費			
給料手当	18,500,000	26,526,087	20,000,000
雑給与	1,500,000	2,359,648	1,500,000
賞与	17,000,000	15,593,350	17,000,000
紹介手数料	1,200,000	1,276,000	1,200,000
通勤費	2,000,000	2,024,610	2,000,000
法定福利費	8,600,000	10,296,629	8,800,000
福利厚生費	500,000	348,182	400,000
報酬	2,865,000	2,771,736	2,865,000
旅費	50,000	24,186	50,000
通信運送費	3,300,000	4,171,045	2,850,000
印刷費	980,000	1,400,700	730,000
消耗品費	3,900,000	2,815,650	2,300,000
接待交際費	60,000	84,800	60,000
保険料	2,800,000	4,288,940	4,000,000
賃借料	16,200,000	14,356,779	15,800,000
水道光熱費	680,000	782,415	788,100
諸管理費	5,259,000	8,773,352	4,059,000
租税公課	5,180,000	6,643,928	6,060,900
広告宣伝費			
減価償却費	3,200,000	2,822,265	3,200,000
予備費	6,530,000		4,000,000
B 経常費用計	697,084,000	763,622,873	727,852,000
当期経常増減額	-51,380,000	-44,700,147	-60,750,000
経常外増減の部			
(1)経常外収益			
寄付金収入			
雑収入	16,400,000	40,936,191	32,750,000
再開発関連収入			
助成金収入	19,980,000		13,000,000
積立金取崩収入			
学術集会等積立取崩	15,000,000		15,000,000
APLAR積立金取崩			
前期正味財産繰入			
前期正味財産繰入			
C 経常外収益計	51,380,000	40,936,191	60,750,000
(2)経常外費用			
法人税等			
雑損			
固定資産減損損失			
特別損			
APLAR積立準備基金繰入			
D 経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額		40,936,191	
当期一般正味財産増減額		-3,763,956	
一般正味財産期首残高		564,065,113	
一般正味財産期末残高		560,301,157	
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額			
指定正味財産期首残高			
指定正味財産期末残高			
III 基金増減の部			
基金受入額			
基金返還額			
当期基金増減額			
基金期首残高		120,000,000	
基金期末残高		120,000,000	
IV 正味財産期末残高		680,301,157	
収入合計(A+C)	697,084,000	759,858,917	727,852,000
支出合計(B+D)	697,084,000	763,622,873	727,852,000
差額	0	-3,763,956	0

第69回日本リウマチ学会総会・学術集会予算

●収入の部

項 目	単 価	数量	金額	備 考
1 参加費等			110,260,000	有料5,900名
【事前参加登録】		4,850名		
会員／一般	@18,000×	3,300名	59,400,000	
非会員／一般・海外含む	@24,000×	1100名	26,400,000	
会員／コメディカル・大学院生	@4,000×	300名	1,200,000	
非会員／コメディカル・大学院生	@5,000×	150名	750,000	
専攻医	@×		0	
【当日参加登録】		1050名		
会員／一般	@22,000×	490名	10,780,000	
非会員／一般・海外含む	@24,000×	470名	11,280,000	
会員／コメディカル・大学院生	@5,000×	40名	200,000	
非会員／コメディカル・大学院生	@5,000×	50名	250,000	
専攻医	@×		0	
2 懇親会参加費収入	@1,000×	600名	600,000	
3 単位手数料収入	@1,000×	1000件	1,000,000	
4 抄録集販売収入	@3,000×	600冊	1,800,000	
5 企業展示出展料			44,590,000	
特設展示出展料	@3,300,000×	12社	39,600,000	
基礎/小間出展料	@330,000×	13小間	4,290,000	
書籍展示	@700,000×	1式	700,000	
6 広告料			3,642,100	
【抄録集】				
表4	@440,000×	1社	440,000	
表3	@385,000×	0社	0	
表2	@352,000×	0社	0	
グラビア1 p（カラー）	@330,000×	0社	0	
後付け1 p（モノクロ）	@110,000×	1社	110,000	
後付け1/2 p	@60,500×	2社	121,000	
【ハンディプログラム】				
表4	@363,000×	1社	363,000	
表3	@308,000×	1社	308,000	
表2	@286,000×	1社	286,000	
グラビア1 p（カラー）	@253,000×	1社	253,000	
後付け1 p（モノクロ）	@90,200×	2社	180,400	
後付け1/2 p	@40,700×	1社	40,700	
【その他】				
アプリ広告料	@220,000×	7社	1,540,000	
7 各種セミナー共催金		65セッション	148,720,000	2025年1月27日時点
【モーニングセミナー】		5セッション		
大A会場（1,000～2,300席）	@3,080,000×	0セッション	0	
大B会場（400～600席）	@2,860,000×	1セッション	2,860,000	
中会場（180～250席）	@2,200,000×	3セッション	6,600,000	
小会場（80～100席）	@1,320,000×	1セッション	1,320,000	
【ランチョンセミナー】		43セッション		
大A会場（1,000～2,300席）	@3,080,000×	5セッション	15,400,000	
大B会場（400～500席）	@2,860,000×	11セッション	31,460,000	
中会場（180～250席）	@2,200,000×	13セッション	28,600,000	
小会場（80～100席）	@1,320,000×	14セッション	18,480,000	
海外招聘者費	@660,000×	3セッション	1,980,000	
【イブニングセミナー・他】		17セッション		
大A会場（1,000～2,300席）	@3,080,000×	1セッション	3,080,000	
大B会場（400～500席）	@2,860,000×	5セッション	14,300,000	
中会場（180～250席）	@2,200,000×	10セッション	22,000,000	
小会場（80～100席）	@1,320,000×	1セッション	1,320,000	
海外招聘者費	@660,000×	2セッション	1,320,000	
8 寄付金			5,000,000	
日本製薬団体連合会			5,000,000	確定金額
合 計			¥315,612,100	

●支出の部

(単位：円)

項 目	数 量	金額	備 考
1. 事前準備費		89,440,551	
1) 事務局人件費	一 式	22,990,000	
2) 業務事務費	一 式	9,007,046	
3) 事務局諸経費・発送費等	一 式	7,733,200	
4) 事前参加登録システム関係費	一 式	8,299,600	
5) 演題登録システム	一 式	1,880,000	
6) 査読システム	一 式	650,000	
7) 備品・消耗品費	一 式	240,000	
8) 印刷・制作物関係費	一 式	31,950,980	
9) ホームページ	一 式	2,051,225	
10) 演題処理関係費	一 式	3,122,500	
11) 旅費・交通費	一 式	1,516,000	
2. 当日運営費		174,307,161	
1) 会場借り上げ費	一 式	34,946,536	
2) 会場付帯設備費	一 式	1,000,000	
3) 機材費	一 式	29,494,100	
4) 看板・受付・PC受付	一 式	7,491,350	
5) ポスター・ハズオン会場	一 式	3,402,000	
6) 機器展示設営	一 式	3,032,000	
7) 受付システム	一 式	4,134,200	
8) 共催セミナー発券システム	一 式	1,664,000	
9) 運営人件費	一 式	13,615,000	
10) 印刷・制作物費	一 式	1,652,000	
11) 備品費	一 式	1,601,000	
12) 招聘関係費	一 式	39,225,451	
13) 飲食・会合費	一 式	16,654,776	
14) 宿泊・交通費	一 式	12,315,938	
15) 運営諸経費	一 式	2,928,810	
16) 託児運営費	一 式	1,150,000	
3. 事後処理費		1,816,000	
4. 業務委託費		12,583,435	
小 計		278,147,147	
消費税（10%）		13,841,778	一部除く
中計		291,988,925	
予備費		23,623,175	
合 計		¥315,612,100	

受益者負担率	35%
--------	-----

一般社団法人日本リウマチ学会 定款運用規則の改定案	
【現 行】	【改定案】
(入社) 第2条 定款第6条第2項による入会申し込みのため、本会所定の様式により、2名の評議員の推薦署名を要するものとする。書式は、別表様式第1号（正会員用）および別表様式第2号（購読会員用）とする。書式は理事会で定める。 2. 定款第7条第1号 正会員のうち医療研究者は、大学等の研究施設で医療研究に従事する者のほか、リウマチ専門医の指導のもとでリウマチ性疾患の研究あるいは診療に従事する者等を含むものとする。（入会申込書様式第1号による）	(入社) 第2条 定款第6条第2項による入会申し込みのため、本会所定の様式により、2名の評議員<u>またはリウマチ指導医</u>の推薦署名を要するものとする。書式は、別表様式第1号（正会員用）および別表様式第2号（購読会員用）とする。書式は理事会で定める。 2. 同 左 <u>3. 入会申込書に添える会費は振込の証憑をもって代えることができる。</u> <u>附則（2025年4月24日）</u> <u>この規則の改定は、2025年度社員総会の承認を得て、2025年5月1日から適用する。</u>

専門医制度規則の改定案	
1) 専門医の認定	
【現 行】	【改定案】
(認定要領及び有効期間) 第 6 条 資格認定委員会において専門医申請資格を承認されたものに対して、資格認定試験を行い、理事会の議を経て理事長が専門医認定の証を交付する。 2 本証の有効期間は5年間とする。有効期間経過後の措置については、施行細則をもって定める。	(認定要領及び有効期間) 第6条 同 左 2 同 左 <u>3 認定日は4月1日とする。</u> <u>4 登録料は別に定める。</u> <u>附則（2025年4月24日）</u> <u>1 この規則の改定は、2025年度定時社員総会で承認をうけ、2025年度認定者から適用する。</u>
2) 指導医の認定	
【現 行】	【改定案】
(指導医の認定) 第 17 条 専門医制度委員会は毎年1回申請書類によって審査し、指導医の認定を行う。 第 18 条 理事長は専門医制度委員会において指導医として認定されたものに対して、理事会の議を経て指導医認定証を交付する。 2 本証の有効期間は5年とする。有効期間経過後の措置については、施行細則をもって定める。	(指導医の認定) 第 17 条 同 左 2 同 左 <u>3 認定日は4月1日とする。</u> <u>附則（2025年4月24日）</u> <u>1 この規則の改定は、2025年度定時社員総会で承認をうけ、2025年度認定者から適用する。</u>

3) 専門医資格維持施行細則	
【現 行】	【改定案】
	<u>「認定日」</u> 認定日は4月1日とする。 <u>「更新料」</u> 更新料は別に定める。 <u>附則（2025年4月24日）</u> 1 この細則の改定は、2025年度定時社員総会で承認をうけ、2025年度認定者から適用する。 2 認定期日が2月末日となっている更新者については、同年3月末日を認定期日とする。
4) 指導医資格維持施行細則	
【現 行】	【改定案】
日本リウマチ学会指導医としての資格を維持するには、指導医認定証の有効期限が到来する3ヶ月前までに、別に定める資格維持申請書に手数料をそえて専門医制度委員会に提出しなければならない。	日本リウマチ学会指導医としての資格を維持するには、指導医認定証の有効期限が到来する<u>4ヶ月前</u>までに、別に定める資格維持申請書に手数料をそえて専門医制度委員会に提出しなければならない。 <u>「認定日」</u> 認定日は4月1日とする。 <u>附則（2025年4月24日）</u> 1 この細則の改定は、2025年度定時社員総会で承認をうけ、2025年度認定者から適用する。 2 認定期日が2月末日となっている更新者については、同年3月末日を認定期日とする。

一般社団法人日本リウマチ学会 第 12 期役員(理事・監事)選任の件

本案は、日本リウマチ学会第 11 期役員の任期満了に伴い、定款第 14 条の規定「役員の選任は社員総会の決議による」と定めていることから、第 12 期役員の選任について提案するものです。

□ 理事候補者 21 名 (敬称略 五十音順 *印は支部選出 **印は理事会推薦)

渥 美 達 也*	(北海道大学大学院医学研究院免疫・代謝内科学教室)
門 野 夕 峰*	(埼玉医科大学)
金 子 祐 子	(慶應義塾大学)
小 嶋 俊 久*	(国立病院機構名古屋医療センター)
高 橋 伸 典	(愛知医科大学医学部整形外科学講座)
高 柳 広	(東京大学大学院医学系研究科免疫学)
田 中 栄	(東京大学医学部附属病院)
田 中 良 哉	(産業医科大学医学部第 1 内科学講座)
田 村 直 人*	(順天堂大学医学部膠原病内科)
中 島 康 晴*	(九州大学大学院医学研究科整形外科)
中 島 亜 矢 子	(三重大学医学部附属病院リウマチ・膠原病センター)
橋 本 求**	(大阪公立大学大学院医学研究科膠原病内科学)
平 田 信 太 郎*	(広島大学)
藤 井 隆 夫*	(和歌山県立医科大学医学部リウマチ・膠原病内科)
藤 尾 圭 志	(東京大学大学院医学研究科アレルギー・リウマチ学)
松 本 功*	(筑波大学膠原病リウマチアレルギー内科)
宮 前 多 佳 子	(東京女子医科大学医学部膠原病リウマチ内科学分野)
持 田 勇 一	(横浜市立大学附属市民総合医療センター)
桃 原 茂 樹	(医療法人社団博恵会草薙整形外科リウマチクリニック)
森 信 暁 雄	(京都大学大学院医学研究科臨床免疫学講座)
山 岡 邦 宏**	(北里大学医学部リウマチ膠原病・感染内科学)

□ 監事候補者 2 名 (敬称略 五十音順)

中 川 夏 子	(兵庫県立加古川医療センター)
佐 藤 慎 二	(東海大学医学部内科学系リウマチ内科学)

評議員選出承認・報告の件(44 名)

いずみやま たくや
泉 山 拓也（東北大学病院）

かんだ まさとし
神田 真聡（札幌医科大学）

すぎむら ゆうすけ
杉村 祐介（秋田労災病院）

たにむら しゅん
谷村 瞬（北海道内科リウマチ科病院）

いのうえ よしひこ
井上 嘉彦（昭和大学藤が丘病院）

え ば と たかすけ
江波戸 孝輔（北里大学病院）

おおた ゆういちろう
太田 裕一朗（東海大学医学部）

おかもと ゆうこ
岡本 祐子（東京女子医科大学医学部）

かわあい さとし
川合 聡史（聖路加国際病院）

こえぬま なおこ
肥沼 直子（東京女子医科大学）

こじま まれのり
児島 希典（聖隷横浜病院）

こんだ なおこ
根田 直子（東京女子医科大学）

たか だ ひでと
高田 秀人（東京女子医科大学）

たけい ひろし
武井 裕史（慶應義塾大学病院）

た ま き ひろみち
田巻 弘道（聖路加国際病院）

な かい たけひろ
中井 健宏（聖路加国際病院）

にし み しんいちろう
西見 慎一郎（昭和大学）

は た の み か
羽多野 美香（昭和大学）

ひ ぐ ち ともあき
樋口 智昭（東京女子医科大学）

ますおか しょうたろう
増岡 正太郎（横須賀市立うわまち病院）

もちまる え り
持丸 瑛梨（東京女子医科大学）

い とう きよあき
伊藤 清亮（金沢大学附属病院）

い とう ゆうへい
伊藤 有平（三重大学医学部附属病院）

おかばやし りょう
岡 林 諒（総合青山病院）

こでら ひとし
小寺 仁（桑名市総合医療センター）

とおやま ただし
遠山 直志（福井大学医学部附属病院）

ね つ たかひろ
根津 貴広（長岡赤十字病院）

は せ が わ まさひろ
長谷川 正裕（三重大学大学院）

いのうえ た く や
井上 拓也（松下記念病院）

さ が わ と も や
佐川 友哉（京都府立医科大学大学院）

す ず か た か や す
鈴鹿 隆保（大阪医科薬科大学病院）

は し も と て つ べ い
橋本 哲平（兵庫医科大学）

ひらまつ ゆ り
平松 ゆり（大阪医科薬科大学病院）

よ し か わ あ や か
吉川 紋佳（大阪医科薬科大学病院）

わ だ ゆ み こ
和田 裕美子（大阪医科薬科大学病院）

い ず み か わ み は る
泉川 美晴（香川大学医学部附属病院）

さ わ だ な お や
澤田 直哉（道後温泉病院）

ひ ら お か だ い す け
平岡 大輔（愛媛大学大学院）

ほ り た ま さ ひ ろ
堀田 昌宏（岡山大学病院）

や す む ら じ ゅ ん こ
安村 純子（JR 広島病院）

お ざ き た か し
尾崎 貴士（大分大学医学部）

お さ き ま こ と
尾崎 誠（長崎大学）

さ か た こ う め い
坂田 康明（熊本大学病院）

に し む ら な お や
西村 直矢（九州大学病院）

（＊所属は申請時のものを記載）

1. 名誉会員の選任の報告の件(3 名)

名誉会員の内規により「名誉会員」とする。

石黒 直樹（愛知県医療療育総合センター）

住田 孝之（筑波大学医学医療系）

山中 寿（東京女子医科大学）

2. 功労会員の選任・報告の件(22 名)

赤木 繁夫（香里ヶ丘有恵会病院）

伊藤 勝己（小林病院）

片岡 洋一（城東整形外科）

川上 照彦（吉備国際大学）

紺井 一郎（医療法人社団紺井医院）

佐伯 行彦（独立行政法人国立病院機構
大阪南医療センター）

潮平 芳樹（新健幸クリニック）

清水 昌人（北海道内科リウマチ科病院）

末松 栄一（社会医療法人天神会新古賀病院）

杉山 隆夫（独立行政法人国立病院機構下志津病院）

田中 千晶（学研都市病院）

田中 政彦（関越病院）

谷村 一秀（北海道内科リウマチ科病院）

中崎 聡（城北病院）

中島 衡（医療法人相生会）

中村 正（医療法人桜十字桜十字病院）

根来 伸夫（大阪公立大学医学部附属病院）

長谷川 均（医療法人恕風会大洲記念病院）

深谷 直樹（医療法人豊田会刈谷豊田総合病院）

宮田 昌之（福島赤十字病院）

無量井 泰（無量井内科クリニック）

吉田 行雄（名古屋学院大学）

第72回日本リウマチ学会会長 候補者
(2028年4月開催予定)

注：年齢は学術集会開催年の4月1日現在満66歳未満である者
【1962年(昭和37年)4月2日以後生まれの者】

□ 桑名 正隆 (昭和38年5月16日生)

日本医科大学大学院医学研究科
アレルギー膠原病内科学分野 大学院教授

推薦者：田中栄・渥美達也・川上純・桃原茂樹・藤尾圭志

所 信：次頁掲載

略 歴： “

業 績： “

2025 年 1 月 24 日

一般社団法人日本リウマチ学会
理事長 田中 良哉 先生

推 薦 書

第 72 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (2028 年 4 月開催予定) の会長候補として、
桑名 正隆 氏 (日本医科大学大学院医学研究科長・アレルギー・膠原病内科学分野 教授) を
適任と考えて、推薦致します。

【推薦者】

東京大学大学院医学系研究科
外科学専攻 感覚・運動機能医学講座
整形外科学 教授
(副理事長) 田中 栄

田中 栄 

北海道大学大学院医学院・医学研究院
免疫・代謝内科学教室 教授
(理事) 渥美 達也

渥美 達也 

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
先進予防医学共同専攻
リウマチ・膠原病内科学分野 教授
(理事) 川上 純

川上 純 

医療法人社団 博恵会 理事長
慶應義塾大学医学部
先進運動器疾患治療学 特任教授
(理事) 桃原 茂樹

桃原 茂樹 

東京大学大学院医学系研究科
内科学専攻 生体防御腫瘍内科学講座
アレルギー・リウマチ学 教授
(理事) 藤尾 圭志

藤尾 圭志 

2025 年 1 月 吉日

第 72 回日本リウマチ学会総会・学術集会会長への立候補における所信

日本医科大学大学院医学研究科
アレルギー膠原病内科学分野
大学院教授 桑名 正隆

このたび、2028 年 4 月開催予定の第 72 回リウマチ学会(JCR)総会・学術集会の会長に立候補致します。

膠原病・リウマチ診療は、早期診断、ゴールを設定した治療戦略、多彩な分子標的薬の導入により、めざましい進歩を遂げてきました。患者と医療者が意思決定を共有することで、疾患の制御のみならず、長期的に日常生活動作や生活の質(QOL)を維持するための全人的医療の実践が求められています。一方で、的確な予後・治療効果の予測、グルココルチコイドの短期あるいは非使用を可能とする治療戦略の構築、CAR-T 細胞治療など根治が望める治療法の開発、医療資源の最適配分や医療サービスの効率化など課題も山積しています。

これら課題に対応するためには、国際的および学祭的なコラボレーション、新たなテクノロジーの導入、行政との対話と協働、医療スタッフや患者を巻き込んだチーム医療の促進などが不可欠です。さらに、膠原病・リウマチ学、診療の将来を支える若手のリクルートと育成が最も重要と考えています。これらを踏まえ、最新の知見と課題を共有し、膠原病・リウマチの研究・診療に関わる幅広い領域の若手・中堅・ベテランが対等に交流・ディスカッションできる魅力ある学術集会を実現いたします。

私は 2019 年より JCR 理事、関東支部支部長を務め、2023 年からは副理事長を拝命しています。また、2008 年以降、編集委員会、利益相反マネジメント小委員会、専門医制度委員会など多くの委員会に所属し、2019 年からは MR 編集委員会委員長(『Modern Rheumatology』編集長)、学術集会プログラム担当委員会委員長、抗リウマチ薬市販後調査小委員会(現:製造販売後調査小委員会)副委員長、2023 年からは総務委員会委員長を務めてきました。これら経験を通じて、「リウマチ性疾患の研究および診療内容の向上を推進する」という JCR の設立理念と、透明性を保ちながら社会的説明責任を果たす重要性を強く認識してきました。急速な社会変革や情報化に対応するため、学会運営の透明性・公平性の確保、専門医制度に基づく卒前、卒後教育の充実、行政との協働、学会誌の国際的地位の向上、薬剤安全性情報の適切な管理、利益相反や研究・出版倫理など、多様化する課題にも取り組んでまいりました。第 72 回 JCR 総会・学術集会においては、JCR のミッションを前提に、膠原病・リウマチ領域の明るい未来を描けるような運営を目指します。

以上が私の所信です。透明性を保ち、公正で効率的かつ柔軟な対応を基盤としながら、学術集会委員会(プログラム担当委員会、財務担当委員会)をはじめ理事会、各委員会のご指導とサポートのもとで学会員の皆様とともに学術集会を創り上げていきたいと考えています。会員相互の親睦と発展につながる総会・学術集会になるよう尽力する所存です。何とぞご高配を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年1月1日現在

略 歴

桑名 正隆 (くわな まさたか)

昭和38年5月16日生 (満61歳)

現職 日本医科大学大学院医学研究科長

日本医科大学大学院医学研究科アレルギー膠原病内科学分野 大学院教授

日本医科大学付属病院リウマチ・膠原病内科 部長／強皮症・筋炎先進医療センター長

<学歴・職歴>

昭和63年3月 慶應義塾大学医学部卒業

平成4年3月 慶應義塾大学大学院医学研究科博士課程修了(本間光夫教授)

平成5年5月 米国ピッツバーグ大学内科リウマチ臨床免疫学ポスドク(Thomas A Medsger 教授)

平成8年4月 慶應義塾大学医学部内科学(血液感染リウマチ)助手

平成10年1月 慶應義塾大学医学部先端医科学研究所助手

平成12年10月 慶應義塾大学医学部先端医科学研究所専任講師

平成17年6月 慶應義塾大学医学部リサーチパーク「自己免疫制御、組織再生促進、線維化阻止を包括した治療法の確立」チームリーダー(兼任)

平成18年1月 慶應義塾大学医学部内科(血液感染リウマチ)助教授、診療科副部長、病棟医長

平成21年4月 慶應義塾大学医学部内科(リウマチ)准教授、診療科副部長、病棟医長

平成26年7月より現職

<資格>

日本内科学会認定内科専門医

日本リウマチ学会認定医(現専門医)、指導医

日本リウマチ財団リウマチ登録医

<受賞歴>

平成5年5月 U. S. Arthritis Foundation Fellowship Award

平成6年5月 American Federation of Clinical Research Fellowship Award

平成7年10月 American College of Rheumatology Senior Rheumatology Scholarship Award

平成12年1月 慶應義塾大学坂口光洋医学研究奨励事業特別奨励研究賞

平成14年11月 慶應義塾三代会奨励賞

平成16年6月 日本結合組織学会大高賞

平成17年2月 慶應義塾大学知的資産センター賞

平成17年6月 慶應義塾三代会北島賞

平成19年4月 アボットジャパン・リウマチ性疾患臨床医学賞

平成21年3月 慶應義塾大学知的資産センター賞

平成29年4月 日本リウマチ学会賞

<所属学会ならびに役員>

・ 日本リウマチ学会(評議員)

専門医資格認定委員会問題作成委員(平成18年4月～平成29年4月)

MR編集委員(平成21年4月～現在)

調査・研究委員会利益相反マネジメント小委員会委員(平成21年4月～平成29年4月)

調査・研究委員会抗リウマチ薬市販後調査小委員会委員(平成25年4月～現在)

全身性エリテマトーデス診療ガイドライン作成小委員会委員(平成27年4月～令和元年4月)

学術集会プログラム担当委員会委員(平成28年4月～令和元年4月)

専門医制度委員会委員(平成28年10月～令和元年4月)

人工知能(AI)医療推進小委員会委員(平成30年4月～令和5年4月)

理事(平成31年4月～現在)

MR編集委員会委員長(平成31年4月～現在)

学術集会プログラム担当委員会委員長(平成31年4月～現在)

抗リウマチ薬市販後調査小委員会(現製造販売後調査小委員会)副委員長(平成31年4月～現在)

日本リウマチ学会関東支部支部長(平成 31 年 4 月～現在)

副理事長(令和 5 年 4 月～現在)

総務委員会委員長(令和 5 年 4 月～現在)

- ・ 日本内科学会(評議員)
資格認定試験問題作成委員(平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月)
資格認定試験病歴要約評価委員(平成 19 年 4 月～平成 26 年 3 月)
関東支部幹事(平成 20 年 4 月～平成 26 年 3 月)
学術集会運営委員(令和 2 年 4 月～令和 5 年 3 月)
認定更新委員会委員(令和 3 年 4 月～令和 4 年 3 月)
関東支部代表(令和 6 年 4 月～現在)
- ・ 日本肺高血圧・肺循環学会(評議員)
理事(平成 28 年 4 月～現在)
副理事長(平成 31 年 4 月～現在)
第 7 回学術集会会長(令和 4 年 7 月 2～3 日)
- ・ 日本臨床免疫学会(評議員)
編集委員(令和 5 年 4 月～現在)
- ・ 日本炎症・再生医学会(評議員)
- ・ 日本血液学会
- ・ 日本循環器学会
- ・ 日本呼吸器学会

< 公的活動 >

平成 12 年 4 月	難病情報センター情報企画委員(平成 20 年 3 月まで)
平成 19 年 8 月	日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員(平成 20 年 7 月まで)
平成 20 年 8 月	日本学術振興会国際事業委員会評価委員(平成 22 年 7 月まで)
平成 21 年 12 月	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(平成 24 年 11 月まで)
平成 23 年 7 月	医療機器センター臨床工学士試験委員(令和 2 年 3 月まで)
平成 25 年 12 月	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(令和元年 3 月まで)
平成 28 年 1 月	NPO 法人 PAH の会 医学顧問員(現在まで)
平成 28 年 9 月	国立研究開発法人日本医療研究開発機構評価委員(現在まで)
平成 28 年 12 月	厚生労働科学研究費補助金アレルギー免疫疾患等政策研究事業評価委員 (平成 31 年 3 月まで)
平成 29 年 10 月	医薬品医療機器総合機構(PMDA) 専門委員(現在まで)
平成 30 年 7 月	厚生科学審議会疾病対策部会指定難病検討委員会委員(現在まで)
平成 30 年 11 月	World Scleroderma Foundation Ex-Officio Steering Group member(現在まで)
平成 31 年 4 月	厚生労働科学免疫・アレルギー疾患政策研究事業評価委員(現在まで)
平成 31 年 4 月	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(令和 4 年 3 月まで)
令和 4 年 4 月	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)プログラムオフィサー(現在まで)

< 学術雑誌 Editorial board(令和 7 年 1 月現在) >

Editor-in-Chief: Modern Rheumatology, Journal of Scleroderma and Related Disorders

Academic editor/editor: Drugs, PLoS ONE, Journal of Nippon Medical School, Rheumatology, Arthritis Research and Therapy, Immunological Medicine, RMD Open

< 競争的公的資金獲得状況(代表のみ) >

1. 文部科学省科学研究費 14 件(奨励研究、基盤研究 B、基盤研究 C、萌芽研究)
2. その他の省庁からの公的資金 2 件(独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、AMED)

< 知的財産 >

1. 特許第 3312204 号「血小板減少症の診断用キット」
2. 特許第 3455782 号「強皮症の診断薬」 US Patent 7,262,062/European Patent (Germany) 602 41 417.2
3. 特許第 3762975 号「単球由来多能性細胞 MOMC」 US Patent 7,795,018
4. 特許第 3928881 号「単球由来多能性細胞 MOMC(分割出願)」 US Patent 8,216,838
5. 特許第 5191544 号「皮膚筋炎の診断方法および診断キット」

令和7年1月1日現在

業績目録

日本医科大学大学院医学研究科
アレルギー膠原病内科学分野
大学院教授 桑名 正隆

主な学会発表

- ・ 国内学会(シンポジウムの筆頭演者) 92 編
- ・ 国際学会 125 編

欧文出版物

- ・ 欧文原著論文 514 編 (うち筆頭/責任著者 151 編)
- ・ 欧文総説 47 編 (うち筆頭/責任著者 34 編)
- ・ 欧文書籍 16 編
- ・ 欧文書籍編集 3 編

代表原著論文(50 論文)

1. Kuwana M, Avouac J, Hoffmann-Vold AM, Smith V, Toenges G, Alves M, Distler O, and SENSICIS trial investigators. Development of a multivariable prediction model for progression of systemic sclerosis-associated interstitial lung disease. *RMD Open*. 2024; 10(3): e004240.
2. Kuwana M, Sugiyama N, Momohara S, Atsumi T, Takei S, Tamura N, Harigai M, Fujii T, Matsuno H, Takeuchi T, Yamamoto K, Takasaki Y, Tanigawa M, Endo Y, Hirose T, Marishima Y, Yoshii N, Mimori T, and Takagi M. Six-month safety and effectiveness of tofacitinib in patients with rheumatoid arthritis in Japan: interim analysis of post-marketing surveillance. *Mod. Rheumatol*. 2024; 34(2): 272-286.
3. Spiera R, Kuwana M, Khanna D, Hummers L, Frech TM, Stevens W, Matucci-Cerinic M, Kafaja S, Distler O, Jun JB, Levy Y, Leszczynski P, Gordon J, Steen V, Lee EB, Jankowski T, Litinsky I, Chung L, Hsu V, Mayes M, Sandorfi N, Simms RW, Finzel S, de Vries-Bouwstra J, Constantine S, Dgetluck N, Dinh Q, Bloom BJ, Furst DE, White B, Denton CP; RESOLVE-1 Study Group. Efficacy and safety of lenabasum, a cannabinoid type 2 receptor agonist, in a phase 3 trial in diffuse cutaneous systemic sclerosis *Arthritis Rheumatol*. 2023; 75(9): 1608-1618.
4. Takagi M, Atsumi T, Matsuno H, Tamura N, Fujii T, Okamoto N, Takahashi N, Nakajima A, Nakajima A, Tsujimoto N, Nishikawa A, Ishii T, Takeuchi T, and Kuwana M. Safety and effectiveness of baricitinib for rheumatoid arthritis in Japanese clinical practice: 24-week results of all-case postmarketing surveillance. *Mod. Rheumatol*. 2023; 33(4): 647-656.
5. Kuwana M, Ito T, Kowata S, Hatta Y, Fujimaki K, Naito K, Kurahashi S, Kagoo T, Tanimoto K, Saotome S, Tomiyama Y, and R788-1301 Investigators. Fostamatinib for the treatment of Japanese patients with primary immune thrombocytopenia: A phase 3, placebo-controlled, double-blind, parallel-group study. *Br. J. Haematol*. 2023; 200(6): 802-811.
6. Kuwana M, and Okazaki Y. A multianalyte assay for the detection of dermatomyositis-related autoantibodies based on immunoprecipitation combined with immunoblotting. *Mod. Rheumatol*. 2023; 33(3): 543-548.
7. Yomono K and Kuwana M. Outcomes in patients with systemic sclerosis undergoing early vs delayed intervention with potential disease-modifying therapies. *Rheumatology (Oxford)*. 2022; 61(9): 3677-3685.
8. Fukue R, Okazaki Y, Gono T, and Kuwana M. Abatacept downregulates Fcγ receptor I on circulating monocytes: A potential therapeutic mechanism in patients with rheumatoid arthritis. *Arthritis Res. Ther*. 2022; 24(1): 194.
9. Kuwana M, Allanore Y, Denton CP, Distler JHW, Steen VD, Khanna D, Matucci-Cerinic M, Mayes MD, Volkman ER, Miede C, Gahlemann M, Quaresma Lic M, Alves M, and Distler O. Nintedanib in patients with systemic sclerosis-associated interstitial lung disease: subgroup analyses by autoantibody status and skin score. *Arthritis Rheumatol*. 2022; 74(3): 518-526.
10. Gono T, Okazaki Y, and Kuwana M. Antiviral proinflammatory phenotype of monocytes in anti-MDA5 antibody-associated interstitial lung disease. *Rheumatology (Oxford)*. 2022; 61(2): 806-814.

11. Gono T, Masui K, Nishina N, Kawaguchi K, Kawakami A, Ikeda K, Kirino Y, Sugiyama Y, Tanino Y, Nunokawa T, Kaneko Y, Sato S, Asakawa K, Ukichi T, Kaieda S, Naniwa T, Okano Y, Kuwana M, and A Multicenter Retrospective Cohort of Japanese Patients with Myositis-associated ILD (JAMI) investigators. Risk prediction modeling based on a combination of initial serum biomarkers in myositis-associated interstitial lung disease. *Arthritis Rheumatol*. 2021; 73(4): 677-686.
12. Nawata T, Shirai Y, Suzuki M, and Kuwana M. Chest wall muscle atrophy as a contributory factor for forced vital capacity decline in systemic sclerosis-interstitial lung disease. *Rheumatology (Oxford)*. 2021; 60(1): 250-255.
13. Khanna D, Lin CJF, Furst DE, Goldin J, Kim G, Kuwana M, Allanore Y, Matucci-Cerinic M, Distler O, Shima Y, van Laar J, Spotswood H, Wagner B, Siegel J, Jahreis A, and Denton CP. Tocilizumab in systemic sclerosis: a randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial. *Lancet Respir. Med*. 2020; 8(10): 963-974.
14. Kuwana M, Blair C, Takahashi T, Langley J, and Coghlan JG. Initial combination therapy of ambrisentan and tadalafil in connective tissue disease-associated pulmonary arterial hypertension (CTD-PAH) in the modified intention-to-treat population of the AMBITION study: a post hoc analysis. *Ann. Rheum. Dis*. 2020; 79(5): 626-634.
15. Distler O, Highland KB, Gahlemann M, Azuma A, Fischer A, Mayes MD, Raghu G, Sauter W, Girard M, Alves M, Clerisme-Beaty E, Stowasser S, Tetzlaff K, Kuwana M, Maher TM, for the SENSICIS trial investigators. Nintedanib for systemic sclerosis-associated interstitial lung disease. *N. Engl. J. Med*. 2019; 380(26): 2518-2528.
16. Sato S, Masui K, Nishina N, Kawaguchi Y, Kawakami A, Tamura M, Ikeda K, Nunokawa T, Tanino Y, Asakawa K, Kaneko Y, Gono T, Ukichi T, Kaieda S, Naniwa T, Kuwana M, and A Multicentre Retrospective Cohort of Japanese Patients with Myositis-associated ILD (JAMI) Investigators. Initial predictors of poor survival in myositis-associated interstitial lung disease: a multicentre cohort of 497 patients. *Rheumatology (Oxford)*. 2018; 57(7):1212-1221.
17. Kuwana M, Shirai Y, and Takeuchi T. Elevated serum Krebs von den Lungen-6 in early disease predicts subsequent deterioration of pulmonary function in patients with systemic sclerosis and interstitial lung disease. *J. Rheumatol*. 2016; 43(10): 1825-1831.
18. Shirai Y, Okazaki Y, Inoue Y, Tamura Y, Yasuoka H, Takeuchi T, and Kuwana M. Elevated pentraxin 3 in systemic sclerosis: associations with vascular manifestations and defective vasculogenesis. *Arthritis Rheumatol*. 2015; 67(2): 498-507.
19. Kuwana M, and Okazaki Y. Impaired *in vivo* neovascularization capacity of endothelial progenitor cells in patients with systemic sclerosis. *Arthritis Rheumatol*. 2014; 66(5): 1300-1305.
20. Masuda A, Yasuoka H, Satoh T, Okazaki Y, Yamaguchi Y, and Kuwana M. Versican is upregulated in circulating monocytes in patients with systemic sclerosis and amplifies a CCL2-mediated pathogenic loop. *Arthritis Res. Ther*. 2013; 15(4): R74.
21. Kuwana M, and Okazaki Y. Quantification of circulating endothelial progenitor cells in systemic sclerosis: a direct comparison of protocols. *Ann. Rheum. Dis*. 2012; 71(4): 617-620.
22. Hoshino K, Satoh T, Kawaguchi Y, and Kuwana M. Association of *Hepatocyte Growth Factor* promoter polymorphism with severity of interstitial lung disease in Japanese patients with systemic sclerosis. *Arthritis Rheum*. 2011; 63(8): 2465-2472.
23. Sato S, Hoshino K, Satoh T, Fujita T, Kawakami Y, Fujita T, and Kuwana M. RNA helicase encoded by melanoma differentiation-associated gene 5 is a major autoantigen in patients with clinically amyopathic dermatomyositis: association with rapidly progressive interstitial lung disease. *Arthritis Rheum*. 2009; 60(7): 2193-2200.
24. Kawai M, Masuda A, and Kuwana M. A CD40-CD154 interaction in tissue fibrosis. *Arthritis Rheum*. 2008; 58(11): 3562-3573.
25. Asahi A, Nishimoto T, Okazaki Y, Suzuki H, Masaoka T, Kawakami Y, Ikeda Y, and Kuwana M. *Helicobacter pylori* eradication shifts monocytes' Fcγ receptor balance toward inhibitory FcγRIIB in immune thrombocytopenic purpura. *J. Clin. Invest*. 2008; 118(8): 2939-2949.
26. Yamaguchi Y, Seta N, Kaburaki J, Kobayashi K, Matsuura E, and Kuwana M. Excessive exposure to anionic surfaces maintains autoantibody response to β₂-glycoprotein I in patients with antiphospholipid syndrome. *Blood*. 2007; 110(13): 4312-4318.

27. Kuwana M, Okazaki Y, Kodama H, Satoh T, Kawakami Y, and Ikeda Y. Endothelial differentiation potential of human monocyte-derived multipotential cells. *Stem Cells*. 2006; 24(12): 2733-2743.
28. Kuwana M, Kaburaki J, Okazaki Y, Yasuoka H, Kawakami Y, and Ikeda Y. Increase in circulating endothelial precursors by atorvastatin in patients with systemic sclerosis. *Arthritis Rheum*. 2006; 54(6): 1946-1951.
29. Kuwana M, Okano Y, Pandey JP, Silver RM, Fertig N, and Medsger TA Jr. Enzyme-linked immunosorbent assay for detection of anti-RNA polymerase III antibody: analytical accuracy and clinical associations in systemic sclerosis. *Arthritis Rheum*. 2005; 52(8): 2425-2432.
30. Kuwana M, Matsuura E, Kobayashi K, Okazaki Y, Kaburaki J, Ikeda Y, and Kawakami Y. Binding of β_2 -glycoprotein I to anionic phospholipids facilitates processing and presentation of a cryptic epitope that activates pathogenic autoreactive T cells. *Blood*. 2005; 105(4): 1552-1557.
31. Kuwana M, Okazaki Y, Yasuoka H, Kawakami Y, and Ikeda Y. Defective vasculogenesis in systemic sclerosis. *Lancet*. 2004; 364(9434): 603-610.
32. Kuwana M, Nomura S, Fujimura K, Nagasawa T, Muto Y, Kurata Y, Tanaka S, and Ikeda Y. The effect of a single injection of humanized anti-CD154 monoclonal antibody on the platelet-specific autoimmune response in patients with immune thrombocytopenic purpura. *Blood*. 2004; 103(4): 1229-1236.
33. Kajihara M, Kato S, Okazaki Y, Kawakami Y, Ishii H, Ikeda Y, and Kuwana M. A role of autoantibody-mediated platelet destruction in thrombocytopenia in patients with cirrhosis. *Hepatology*. 2003; 37(6): 1267-1276.
34. Kuwana M, Kawakami Y, and Ikeda Y. Suppression of autoreactive T-cell response to glycoprotein IIb/IIIa by blockade of CD40/CD154 interaction: implications for treatment of immune thrombocytopenic purpura. *Blood*. 2003; 101(2): 621-623.
35. Kuwana M, Kimura K, and Kawakami Y. Identification of an immunodominant epitope on RNA polymerase III recognized by systemic sclerosis sera: application to enzyme-linked immunosorbent assay. *Arthritis Rheum*. 2002; 46(10): 2742-2747.
36. Kuwana M, Okazaki Y, Kajihara M, Kaburaki J, Miyazaki H, Kawakami Y, and Ikeda Y. Autoantibody to c-Mpl (thrombopoietin receptor) in systemic lupus erythematosus: relationship to thrombocytopenia with megakaryocytic hypoplasia. *Arthritis Rheum*. 2002; 46(8): 2148-2159.
37. Yoshida K, Arai T, Kaburaki J, Ikeda Y, Kawakami Y, and Kuwana M. Restricted T cell receptor β -chain usage by T cells autoreactive to β_2 -glycoprotein I in patients with antiphospholipid syndrome. *Blood*. 2002; 99(7): 2499-2504.
38. Arai T, Yoshida K, Kaburaki J, Inoko H, Ikeda Y, Kawakami Y, and Kuwana M. Autoreactive CD4⁺ T cell clones to β_2 -glycoprotein I in patients with antiphospholipid syndrome: preferential recognition of the major phospholipid-binding site. *Blood*. 2001; 98(6): 1889-1896.
39. Kuwana M, Kaburaki J, Medsger TA Jr, and Wright TM. An immunodominant epitope on DNA topoisomerase I is conformational in nature: heterogeneity in its recognition by systemic sclerosis sera. *Arthritis Rheum*. 1999; 42(6): 1179-1188.
40. Kuwana M, Kaburaki J, Arnett FC, Howard RF, Medsger TA Jr, and Wright TM. Influence of ethnic background on clinical and serologic features in patients with systemic sclerosis and anti-DNA topoisomerase I antibody. *Arthritis Rheum*. 1999; 42(3): 465-474.
41. Kuwana M, Okano Y, Kaburaki J, Medsger TA Jr, and Wright TM. Autoantibodies to RNA polymerases recognize multiple subunits and demonstrate cross-reactivity with RNA polymerase complexes. *Arthritis Rheum*. 1999; 42(2): 275-284.
42. Kuwana M, Kaburaki J, and Ikeda Y. Autoreactive T cells to platelet GPIIb-IIIa in immune thrombocytopenic purpura: role in production of anti-platelet autoantibody. *J. Clin. Invest*. 1998; 102(7): 1393-1402.
43. Kuwana M, Medsger TA Jr, and Wright TM. Highly restricted TCR $\alpha\beta$ usage by autoreactive human T cell clones specific for DNA topoisomerase I: recognition of an immunodominant epitope. *J. Immunol*. 1997; 158(1): 485-491.
44. Kuwana M, Okano Y, Kaburaki J, Tsuji K, and Inoko H. MHC class II associations with anti U1 small nuclear ribonucleoprotein antibody: relationship to immunoreactivity with individual constituent proteins. *Arthritis Rheum*. 1995; 38(3): 396-405.
45. Kuwana M, Medsger TA Jr, and Wright TM. T cell proliferative response induced by DNA topoisomerase I in patients with systemic sclerosis and healthy donors. *J. Clin. Invest*. 1995; 96(1): 586-596.

46. Kuwana M, Okano Y, Kaburaki J, Tojo T, and Medsger TA Jr. Racial differences in the distribution of systemic sclerosis-related serum antinuclear antibodies. *Arthritis Rheum.* 1994; 37(6): 902-906.
47. Kuwana M, Kaburaki J, Okano Y, Tojo T, and Homma M. Clinical and prognostic associations based on serum antinuclear antibodies in Japanese patients with systemic sclerosis. *Arthritis Rheum.* 1994; 37(1): 75-83.
48. Kuwana M, Kaburaki J, Mimori T, Tojo T, and Homma M. Autoantigenic epitopes on DNA topoisomerase I: clinical and immunogenetic associations in systemic sclerosis. *Arthritis Rheum.* 1993; 36(10): 1406-1413.
49. Kuwana M, Kaburaki J, Okano Y, Inoko H, and Tsuji K. The HLA-DR and DQ genes control the autoimmune response to DNA topoisomerase I in systemic sclerosis (scleroderma). *J. Clin. Invest.* 1993; 92 (3): 1296-1301.
50. Kuwana M, Kaburaki J, Mimori T, Tojo T, and Homma M. Autoantibody reactive with three classes of RNA polymerases in sera from patients with systemic sclerosis. *J. Clin. Invest.* 1993; 91(4): 1399-1404.